

### 1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2894900014	
法人名	社会福祉法人ひまわり	
事業所名	ステーションRONDO	
所在地	朝来市和田山町安井820-10	
自己評価作成日	平成28年1月23日	評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人ニッポン・アクティブライフクラブナルク兵庫福祉調査センター	
所在地	尼崎市南武庫之荘2丁目27-19	
訪問調査日	平成28年2月25日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念「人の輪・関係作りを支援する」を大切に様々な関係の輪を大切に考え支援している。理念実現のためご利用者やご家族の声に耳を傾け、継続する事を大切に日々丁寧なケアを心がけている。地域との関係の構築も10年をむかえ実感できるようになった。増改築し、機械浴槽や介護用ベッド、スプリンクラーの設置など可能な限り希望される在宅生活を安心して送れる環境の整備も実施できた。今後も家庭的な雰囲気を大切に地域の声が届く事業運営をしていきたい。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

施設というより自然なご近所付き合いを重視し、近隣の地域住民も日常的に、気軽に立ち寄れる場所となっている。まさに、 Rond という名前が示すように、職員同士が意識を共有し、利用者のみならず、地域住民との関係強化に努めてきた、10年近い歴史になかで、培われた地域との輪ができています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自 己 者	項 目	自己評価		第三者評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1) ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員が「人の輪・関係づくりを支援する」の理念を共有し、ご利用者様それぞれが日々安心して過ごせる雰囲気大切にしている。採用時には必ず伝え、悩んだときには理念を基に考えている。	理念とする「人の輪・関係づくり」を、職員は、相互の関係づくりを目標とし、常にチームで取り組み、現場業務において、お互いに支え合うことを実践し、そこから、利用者個々の関係を注視し、笑顔の広がる輪づくりが取り組まれている。		
2	(2) ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の行事に出掛けたり地域の方にもおこしいただき交流している。地域の子供さんや小学校との交流も継続している。	施設の機関紙「rondoだより」には、地域と事業所との相互交流の様子が毎回紹介されており、利用者のみならず、地域住民や子供たちにとっても楽しみにされている様子がよく分る。	地域包括ケアの取組が進められる中で、小規模多機能事業所としての特性を生かし、これからの地域活動拠点としての輪を広げる取り組みを期待します。	
3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の公民館で研修会を行っている。			
4	(3) ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に推進会議を実施している。会議での意見や委員の意見を前向きに受け止めている。	推進会議には、包括支援センター担当者・区長・地域協議会メンバー・医院の看護師長・利用者家族も多数参加され、気軽に意見を述べ、運営に参加する取り組みがなされている。		
5	(4) ○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	推進会議、必要に応じ担当者とは連絡を取っている。市内小規模多機能事業所の連絡会があり活動内容を知らせている。	推進会議や市内小規模多機能事業の連絡会等の会議において相互に報告をし、必要に応じて、連絡は出来ている。		
6	(5) ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組む	組織内で研修を実施している。身体拘束をしないという視点で日々のケアを考えている。	基本的に初任者研修などの機会をとらえて、法人全体の取組として研修を実施し、ケア対応の実践に取り組まれている。		
7	(6) ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	組織内で研修を実施している。虐待を見逃すことがないように情報の集約をして注意している。	組織内での研修はもとより、虐待を見逃さない取組として、内出血の有無なども含め、利用者の身体状況の変化に注意を払い、職員間での情報共有をして、対応するように努めている。		

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内で研修を実施している。組織内で成年後見制度の研修を行った。	26年度に、研修実施することを目標として掲げ、27年度に法人内で研修を実施した。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や改定時は文章をもって説明し不安や疑問の解消になるようにしている。また契約前には見学や試験利用を行っている。	利用に際し、初めに利用者宅を訪問し、見学や、一時利用について説明を行い、安心して利用開始できるよう、お試利用が出来るよう取り組まれている。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置したり職員は聴く姿勢を大切にしている。又家族会があり意見が表出しやすいよう意識している。	利用に際して、家族会に参加して頂くことをお願いし、年3回の家族会行事で意見を聞く機会を持っている。また、家族会は、会長を選出し、会費を持って運営し、利用者、家族に直接要望をお聞きするなど運営に関する意見が出せる場となっている。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや各種会議、日々の業務の中で意見交換に努めている。	職員は、担当ごとに各種委員会にも所属し、部門ごとの役割を持ち、意見交換をする機会が持たれている。また、日々の業務で気づいたことは、夕方5時のミーティングでリーダー、副主任等に報告することとなっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ミーティングや、各種会議、日々の業務の中で意見交換に努めている。また定期的な目標面接を実施し個々の意見や思いを聞く機会としてもとらえている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	組織で外部研修、組織内での研修など研修計画を立てている。オープン(育成担当)制度を取り入れている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内小規模多機能型居宅介護事業所の連絡会、交流会、研修会を実施している。		

自己	三者	項目	自己評価		第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	まずはご利用者の声を傾聴することに努めている。過ごし方、過ごす場所、座る場所など安心できるよう留意している。ご自宅に訪問し様子をお聞きしたりしている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご利用者やご家族の声に耳を傾け、丁寧に聴き共に考える事が出来るよう心がけている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	声を聞く中でその時まず何を求めておられるのか具体的に出来るよう留意している。当事業所のサービスにこだわることなく必要と思われる対応が出来るよう努めている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その方を知る事からスタートし、関係作りが出来るよう留意している。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	色々な関係づくり、輪づくりを意識して関係を築いていっている。			
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お聞きした事は職員間で情報共有し、その関係が継続できるよう留意している。地域に行くこと、地域の方が来られる事、地域の一員である事を意識している。	サービス利用の日程について、老人会の開催や地域あじさいの会・講社の集まりなど、地域とのつながりを重視し、対応日の変更など随時行っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士の関係性は大切にしている。また事業所の中で出来る関係性も大切にしながらご利用者同士が係わり、支えあえることを大切に支援している。			

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了してもそれまでの関係を大切にしている。新たな環境での生活に対しては事業者からも情報提供し、希望される生活に早く馴染まれるよう支援している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者の声に耳を傾け、その情報を共有し暮らしに取り入れる視点で支援している。	家族の思いや意向を捉えると共に、利用者の声に耳を傾け、本人の意向を第一に考えて検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族とのコミュニケーションを通じ把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	それぞれのご状態にあった過ごし方が出来るよう心身状態や転倒転落スコア、長谷川式なども定期的にも実施し把握に努めている。		
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご希望にそった介護計画を作成し、ご本人やご家族に確認頂き支援している。又介護計画書を作成し、変更があればその都度情報を共有している。	サービス担当者会議に家族、ケアマネジャー、福祉用具専門等に参加して頂き、そこでの意見や意向を反映した介護計画の作成と見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は記録として記入し、ケアプランや介護計画書を定期的に見直している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	事業所のサービスにとらわれず介護保険以外のサービスの利用やご家族、近隣者の支援なども取り入れている。		

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一部の方ではあるが、地域の老人会などのかかわりがとぎれることがないように留意している。		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医とは定期的に又必要に応じ連絡をとったり状態をお知らせしている。必要があれば受診に同行するなど適切な医療を確保する支援を心がけている。	主治医との連携を密にして、受診を支援している。必要に応じてケアマネージャが家族と共に受診に同行している。月に1～2回、歯科医の訪問診療があり希望により受診されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	小さな変化も看護師と情報を共有し、協同の支援を行っている。必要に応じ主治医に連絡をするなど対応している。		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時の情報提供、入院中の面談と相談、退院時の情報把握や退院調整会議への出席など関係づくりをしながら支援している。	入院時には、病院関係者との情報交換に努め、連絡を密にして早期退院に向けて支援している。退院時には、本人、家族の意向や状態を確認し退院調整会議に出席する等して支援している。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	支援開始時、また都度様子を見ながらご利用者ご家族と話し、また事業所内でも情報を共有しながらすすめている。	利用者・家族と話し合い、主治医や看護師とも医療連携を確認し情報を共有して支援している。看取り後の振り返りを繰り返し行い次につなげている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命講習や施設内での研修を実施している。		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に訓練を実施している。地域の訓練に参加し協力体制を築いていっている。	消防署の立ち合いの下、年3回利用者と共に避難訓練をしている。交流のある小学校が避難場所になっており、散歩の時も立ち寄っている。自家発電、食料、毛布、担架、おむつ、ヘルメット等の備えをしている。	

自己	三者	項目	自己評価		第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用期間がながくなくても馴れ合いになることなく、人格やプライバシーの保護には留意している。	馴れ合いにより、人格やプライバシーを損ねることがないように日頃から意識している。援助が必要な時も自己決定して頂ける言葉かけをするように努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の支援の中でまた職員から情報提供しながらご本人に決定して頂ける働きかけを意識している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その方のペースを知り、その方の希望にそい無理のない支援が出来るよう留意している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	例えば入浴時、宿泊時などもご自宅同様お化粧が出来るように、また好みの衣類が着れるよう準備をする等おしゃれが出来るように支援している。			
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	その方が食べやすいようまた食欲が出るよう盛り付けるなど工夫している。片付けも一緒にやっている。毎月手作りおやつと一緒に作り、食べ楽しんでいる。	法人で一括外注した料理が届く。事業所ではその人が食べやすいように手を加え、盛り付け等も工夫して提供している。職員は利用者と一緒にテーブルを囲み同じものを食べている。毎月一回、手作りおやつの日を楽しんでいる。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご自宅でのお食事状況をお聞きしたり、その時々その方にあった食事が提供できるように支援している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを実施している。必要に応じ歯科医とも連絡を取りケアに努めている。			

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご家族と情報交換も実施しながらトイレ誘導するなどその方にあった排泄の自立を支援している。	個々人に合わせて、羞恥心に配慮したさりげない声掛けをしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分の提供、運動の機械の確保、また腹部のマッサージなど個々に合わせて取り組んでいる。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個浴の利点を生かしゆっくり入浴して頂いている。また昨年機械浴を設置し、負担なく入浴して頂いている。	週2から3回の入浴となっている。個浴と機械浴があり、機械浴の設置により、負担なく入浴して頂くと同時にサービスを継続できる安心感にもつながった。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方の活動や生活習慣に合わせた睡眠を意識している。宿泊時眠れない夜は温かいものを勧めるなど入眠しやすい環境づくりに留意している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	定期的に服薬内容を確認し、服薬後のご状態や症状の変化などをご家族や主治医と連携している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味や特技、習慣を把握し日々の活動の中に取り入れている。ご利用者が出来る事はその方の役割として活動が出来るよう留意している。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は近所に散歩に出掛けたり、希望を聞きながらイベントなどにも出掛けている。ボランティアにも協力を得ている。	日常的に近辺への散歩に出掛けている。小学校の敷地内を散歩できるようになっている。地域のイベントに出掛けたり、利用者の希望を聞いていろいろな企画を立て出掛けている。	



自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には持参されない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	季節の挨拶の便りの支援をしている。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日中はカーテンを開け採光を心がけ、室温や換気にも留意している。BGMを流したり季節の飾り物を設置したりしている。何よりも清潔な環境は大切にしている。	増改築された浴室までの回廊は広く、手すりが取り付けられて生活リハビリしやすい工夫がされている。二つある居間のうち和室だったものは洋室にリフォームされ、ソファやベッドが置かれ、ゆっくりと休める場所となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	馴染みの関係でゆっくり過ごせるよう、建物のどこで過ごして頂くかご利用者にも相談しながら実施している。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の希望を聞きながら、ご家族にも帰宅後話される内容をお聞きしたりして安心して過ごせるよう留意している。	泊りの部屋は落ち着いて過ごして頂けるように簡素ではあるが清潔感のある部屋となっている。立ち上がり等の動作を容易にできるように介護ベッドが設置された。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご利用者の出来る事、わかる事を知り制限することがないよう、また安全に過ごせるよう留意しながら支援している。		